九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[09] 九州大学農学部農場研究資料表紙総括等

https://hdl.handle.net/2324/12564

出版情報：九州大学農学部農場研究資料. 9, 1987-03. 九州大学農学部附属農場
バージョン：
権利関係：

昨年度事業の総括

昭和６０年度の回顧

昭和６０年度は痛恨の年であった。作物研究室の宮国栄美班長が作業中に不慮の事故で急逝された。同氏は在職３２年のベテラン技官で，圃場管理や栽培技術に精通し，特に農業機械の操作に就いては優れた技能の持ち主であった。研究に，実習に欠かせない人を農場は失ったのである。

哀惜に耐えません。謹んでご冥福をお祈りします。

作物研究室は２月１５日付けで，果樹研究室より中川幸雄技官を班長に迎え，果樹研究室には昭和６１年４月１日付けで安河内幸一技官を新規採用で補充し，業務に支障なきを期することとなった。

農場業務については，学生実習は計画通り行われた。農学科２年生には新たに２泊２日の秋期宿泊実習を課し，実習の充実を計った。生産面では，ミカンの増収はあったが，水稲が台風１３号の被害で減収し，生産収入は初期の目標を達することができなかった。一方，研究面ではこの資料に収録されているように，農業の新しい生産体系のための試験研究がそれぞれの部門で展開された。特に農場の教官による学部学生や大学院生の研究指導がふえ，その内容が多様化してきている。さらに学部研究者による農場での試験研究もふえつつあるが，人や研究費の厳しい制約のなかで，学生実習のための農場運営業務が優先し，十分な対応ができかねている。施設・設備の一層の充実が待たれる。

研究部長　藤　枝　國　光

昭和６０年度農産物生産実績

品目	作物	機械	果樹	施設園芸	畜産	研究部長
玄米	229 俵 ＋80 袋			3 袋		
小麦	53 俵	1, 320 kg				
馬鈴薯	150 kg					
ダイズ	14 袋	420 kg				
アズキ	46 袋					
ハトムギ	23 kg					
早生温州			21, 409 kg			
巨峰			468 kg			
マスカットベリーA			1, 572 kg			
ネオマスカット			452 kg			
梅			490 kg			
キュウリ				4, 437 kg		
メロン				1, 762 個		
セルリー				1, 670 kg		
甘藷				112 kg		
鉢物				1, 297 鉢		
函牛乳					47, 155 函	
ヨーグルト					1, 096 函	
バター					143 個	
卵					41 kg	
肉用牛					4 頭	
廃牛					4 頭	
肥育豚					4 頭	
肉加工品					142. 3 kg	
乳酸飲料					1, 008 函	
カボチャ						77 kg ＋30 袋
ダイコン						500 本

昭和６０年度農産物収入実績

品目	作物	機械	果樹	施設園芸	畜産	研究部長	計
玄米	4,369			52			4,421
小麦	482	117					599
馬鈴薯	136						136
ダイズ	119	119					238
アズキ	12						12
ハトムギ	6						6
早生温州			2,043				2,043
巨峰			255				255
マスカットベリーA			313				313
ネオマスカット			84				84
梅			170				170
キュウリ				690			690
メロン				1,318			1,318
セルリー				98			98
甘藷				10			10
鉢物				640			640
函牛乳					8,959		8,959
ヨーグルト					132		132
バター					36		36
卵					9		9
肉用牛					1,393		1,393
廃牛					1,350		1,350
肥育豚					181		181
肉加工品					141		141
乳酸飲料					171		171
カボチャ						9	9
ダイコン						16	16
その他	176						176
計	5,300	236	2,865	2,808	12,372	25	23,606

単位；千円

昭和60年度学内公費移算実績（施設園芸）

大きさ	貸鉢			計
	大鉢	中鉢	小鉢	
数量	216	828	996	2,040
金額	324	828	498	1,650

単位；千円

昭和60年度経営支出実績

費目	作物	機械	果樹	施設園芸	畜産	計
種苗費	11	7	—	195	223	436
肥料費	642	121	165	11	1,648	2,587
農業薬剤費	391	93	442	135	—	1,061
光熱動力費	336	104	237	593	547	1,817
その他の諸材料費	350	43	710	451	1,205	2,759
水利費	97	—	—	—	—	97
賃借料及び料費	—	—	9	100	215	324
飼料費	—	—	—	—	2,741	2,741
獣医師料及び医薬品	—	—	—	—	134	134
建物及び土地改良	70	96	188	566	547	1,467
農機具費	624	721	55	74	317	1,791
雇用費	216	—	1,818	1,429	—	3,463
その他費	228	20	—	18	448	714
計	2,965	1,205	3,624	3,572	8,025	19,391

単位；千円

作　物　研　究　室

1．昨年度の収支実績

第1表　収入実績

費　目	生産量	生産額(千円)
玄米（政府米）	219（俵）	4,040
（混合米）	10（俵）	154
（くず米）	80（袋）	175
コムギ	39（俵）	437
（規格外）	14（俵）	45
ジャガイモ（春作）	946（kg）	88
（秋作）	554（kg）	48
ダイズ	14（袋）	119
アズキ	46（袋）	12
ハトムギ	23（kg）	6
その他		176
計		5,300

第2表　支出実績

費　目	金額(千円)
種苗費	11
肥料費	642
農薬費	391
燃料費	336
農機具費	624
諸材料費	350
水利費	97
工事費	70
雇用費	216
その他費	228
計	2,965

2．生　産　概　況

(1)　水稲；移植時の水害による初期生育の遅れ，さらに，開花期における２度の台風害，また，登熟初期の高夜温とその後の長雨・低温・日照不定により，早生のアソミノリおよび晩生のレイホウともに，登熟が著しく不良となった。加えて，アソミノリでは，モンガレ病および籾枯細菌病，レイホウでは，籾枯細菌病が多発し，また秋ウンカ（トビイロウンカ）の発生により坪枯れも生じ，収量は平年作を著しく下まわり，かつ，品質も低下した。特に，籾枯細菌病に対する抵抗性品種の育成と防除法の開発は急務である。

(2)　小麦；収穫期に好天に恵まれ，平年作であったが，水稲作との関係から，より早生品種への転換が今後の課題である。

(3)　豆類；水田転換畑試験として，大豆およびアズキについて試験を行った。しかし降雨による播種のおくれと，播種後の高温多雨による発芽および生育の不良に加え，発芽期および収穫期における鳥害等により著しい減収となった。暖地適応型品種の選定と播種・育苗法の改良により初期生育をおうせいにし，健苗を確保することが今後の課題である。

(4)　ジャガイモ；品種「デジマ」を用いた。春作では好天に恵まれ生育良好で，かつ病害虫の

発生も少なく高収となった。一方秋作では，生育初期の長雨と日照不足のため生育不良となり，かつ，収穫期の多雨により，サビ病等が発生し，品質・収量ともに低下した。品質低下の一因として羅病種子芋の増加があり，今後種子芋更新および，ウイルスフリー株の育成や，新品種の導入を検討する。

3．直　接　費

(1)　トレーラー等を購入した。

(2)　ウンカ・モンガレ病等病害虫の多発により，防除費がかさんだ。

(3)　作業用器機が老朽化し，修理費がかさんだ。

機　械　研　究　室

1．昨年度の収支実績

1）収　入

第1表　収入実績

品　目	生産量(kg)	生産額(千円)
ダイズ		119 注)
コムギ	1,320	117
計		236

注) ダイズ収入は59年度生産420kgに対するもの。

2）支　出

第2表　支出実績

費　目	金　額(千円)
種苗費	7
肥料費	121
農業薬剤費	93
光熱動力費	104
建物及び土地改良設備費	96
農機具費	721
その他の諸材料費	43
その他	20
計	1,205

農機具費のなかで，トラクタ類の車検・保険，特定自主検査に38万円を要しており，これは経営支出の32%を占める。

2．生　産　概　況

耕種については鳥害に深刻に悩まされた。ダイズ作では被害軽減のための対策が考えられるが，ムギ作では効果のある方法がみあたらず，本年度も心配される。

1）ダイズ

播種遅れによるドバトの集中的な食害で，壊滅的被害。止むを得ず，ソルゴーを作付け

し，全草すき込みを行って，地力の増進を図った。

2）コムギ

省力多収を目的に，順調な初期生育にあったが，1月初旬に農場では初めてガンカモ科鳥類の食害を被った。この食害は一夜にして33a輪換畑の緑が消え去るほど甚大であった。地下部の生育が旺盛であったため，回復を示していたが，2月中旬にも2度にわたって食害を被り，収量は平年並みにとどまった（61年6月）。なお，収穫期に他作業との競合を避けるため，品種を農林61号からチクシコムギに本年度は更新する。

3）クワ

家蚕遺伝子実験施設に十分な葉量を供給した。新植桑樹については管理作業に力を注ぎ順調な生育をみていたが，夏期の旱害を一部受けた。

3．作業実績

1）機械受託作業，援助作業，機械貸出の実績

第3表　機械受託作業実績

作業名	研究室					計	比率(%)
	作物	畜産	施設園芸	部長	事務部		
耕起	3.50	39.50				43.00	16.84
耕耘	47.33	63.50		4.08		114.91	44.99
整地	0.50			1.00		1.50	0.59
作条・覆土・鎮圧		9.50				9.50	3.72
中耕・除草・培土	0.50	16.17				16.67	6.53
代掻	22.00					22.00	8.61
牽引			1.00	4.50		5.50	2.15
作溝	0.50	0.50		3.17		4.17	1.63
草刈	1.50	1.00		1.33		3.83	1.50
薬剤散布				5.00		5.00	1.96
水路道路整備	2.50	3.00				5.50	2.15
散水			1.50		7.50	9.00	3.52
その他	4.33	1.00		6.00	3.50	14.83	5.81
計	82.66	134.17	2.50	25.08	11.00	255.41	100
比率(%)	32.36	52.53	0.98	9.82	4.31	100	

単位；人・時間

第4表　援助作業実績

作業名	研究室 作物	計	比率(%)
農薬散布	3.00	3.00	2.21
水稲収穫	50.00	50.00	36.76
籾摺	47.00	47.00	34.56
供出	13.00	13.00	9.56
ジャガイモ収獲	11.00	11.00	8.09
除草剤散布	12.00	12.00	8.82
計	136.00	136.00	100
比率(%)	100	100	

単位；人・時間

第5表　機械貸出実績

機械名	研究室 作物	畜産	果樹	施設園芸	部長	事務部	計	比率(%)
トラクタ	77.66	45.66		18.83	4.50		146.65	51.40
耕耘機	5.50	5.50	17.00		2.50		30.50	10.69
モア	14.34	1.50	11.50	5.00	1.00		33.34	11.68
動力噴霧機	3.00	2.50	3.00	32.33	8.33	2.50	51.66	18.11
バックホー	4.00	15.16			4.00		23.16	8.12
計	104.50	70.32	31.50	56.16	20.33	2.50	285.31	100
比率(%)	36.63	24.65	11.04	19.68	7.12	0.88	100	

単位；時間

2）考　察

数年前から計画重点事項の一つに‘受託作業の見直し’をあげている。これは研究・教育への取組みのため，受託内容を強力に見直し，さらに作業能率の向上を図ろうとするものである。第3～5表の総合実績は676人・時間で，前年度に対し，5人・時間，1％の増のほぼ同じ水準であった。しかし，機械受託作業時間には大幅な減少がみられ，見直しは毎年着実に行われていると一応評価できよう。

(1)　機械受託作業；255人・時間。対前年度111人・時間，30％減。ただし，学部講座からの受託作業は機械貸出への移行を図っており，別集計とした。

作業別にみると，耕耘関係作業に前年度とほぼ同じ時間を要したが，牽引・運搬作業が44時間減であった。作業別比率は例年通り耕耘（かくはん耕）が最も大きく，全受託作業の45％に及んだ。

研究室別では，畜産研究室，作物研究室，部長，事務部の順で53%，32%，10%，４%であった。

(2) 援助作業；136人・時間。対前年度90人・時間，196%増。しかし，研究室別にみると昨年度は作物研究室のみであり，対前年度100人・時間の増であった。これは，宮国班長の悲報により11月下旬から援助作業が突出したことによる。

(3) 機械貸出；285時間。対前年度26時間，10%増。受託作業の見直しによって，これとは別に，学部講座への貸出も増加した。

貸出機械別では，大型トラクタが主であったが，中小型農業機械の比率に増加傾向がみられた。

4．主要購入機器

新規，更新ともなし。

5．トラクタ類の稼動実績

機械研究室の主要トラクタ５台とバックホー１台について月別稼動実績を第６表（次頁）に示す。表中の数字はアワメータによる使用時間である。

前年度に対して，より大型（73ＰＳ）と小型トラクタ（19ＰＳ）の使用時間がやや増加した。大圃場を高能率トラクタで，中小圃場を高精度トラクタで作業する方針が反映してきた。

日常の保守に努めた結果，車検時以外の本機外注修理は１件（無償）のみであったが，今後とも整備経費を十分に手当てする必要がある。

6．そ　の　他

１）犂 耕 会

ティラと和犂による犂耕技術の伝承と研鑽を目的として，農業機械学講座と共同で第５回犂耕会を実施した。

２）収集農具

犂を中心に農具100点の整理に着手した。

第6表　機械研究室保有のトラクタ，バックホーの稼動時間（アワメータ）

機　種	1985年									1986年			年度合計	月平均
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
FE35X	5.4	3.7	10.9	0	8.0	3.9	4.7•	10.3	3.6	2.8	0.7	0.9	54.9	4.58
MF135	4.0	2.9	5.5	2.4	13.3	4.0	13.0	1.5	4.0•	1.9	0	0.5	53.0	4.42
SD4000	10.4	13.6	34.8	11.2	13.3	7.2	10.9	9.4	4.0	4.7	0	0	119.5	9.96
SE7340T	21.3	4.6	31.6	13.4	17.6	2.8	13.4*	5.5	1.8	5.1•	0	5.1	122.2	10.18
TL1900	26.8	24.9	58.2	23.2	13.2	11.2	9.1	7.7	8.4	6.3	0	16.8	205.8	17.15
10HT	13.0	2.7	0	7.7	0	9.8	14.9	12.6	5.3	2.7	6.6	14.0•	89.3	7.44
計	80.9	52.4	141.0	57.9	65.4	38.9	66.0	47.0	27.1	23.5	7.3	37.3	644.7	
平均	13.48	8.73	23.50	9.65	10.90	6.48	11.00	7.83	4.52	3.92	1.22	6.22		

注）FE35X；マッセイファーガソントラクタFE35X（45.5PS），1964年10月購入，
MF135；　〃　MF135（48 PS），1972年12月　〃，
SD4000；シバウラトラクタSD4000AD-O（40 PS），1979年 2月　〃，
SE7340T；　〃　SE7340T（73 PS），1982年 2月　〃，
TL1900；ヰセキトラクタ　TL1900（19 PS），1980年11月　〃，
10HT；　コマツバックホー10HT（50 PS），1980年 2月　〃．

注）＊；修理，•；車検，特定自主検査

果　樹　研　究　室

1. 昨年度の収支実績

第1表　収入実績

	生産量(kg)	収入(千円)
早生温州	21,409	2,043
巨峰	468	255
マスカットベリーA	1,572	313
ネオマスカット	452	84
梅	490	170
柿	0	0
リンゴ	0	0
計		2,865

第2表　支出実績

費目	支出額(千円)
肥料費	165
農業薬剤費	442
光熱動力費	237
諸材料費	710
賃借料費	9
建物設備費	188
農機具費	55
雇用費	1,818
計	3,624

2. 生産概況

1）カンキツ；早生温州は表年であり，10a当り約2tの収量となった。ただし，収穫前の長雨で品質はやや不良であった。

第3表　最近5年間の早生温州の収量と品質

年度	生産量 (kg)	収量 (kg/10a)	糖度 (Brix)	酸 (%)	果実の大きさ別収量(%)				
					3L	2L	L	M	S
56	15,417	1,285	11.2	0.80	0	10	29	38	6
57	14,799	1,233	10.9	1.02	15	19	25	30	23
58	21,787	1,816	9.9	0.80	1	5	21	36	11
59	10,824	902	10.4	0.67	12	27	26	24	37
60	21,409	1,784	10.4	0.68	12	24	31	25	8

2）ブドウ；本年は生理障害，病害はほぼ完全に防いだが，9月1日の台風により，ベリーA，ネオマスッカトは著しい被害を受けた：2割が落果し，3割が障害を受けたため，かなりの収入減となった。巨峰は本年度も樹勢が強すぎ，有核果が著しく少なかったことが主因となり，低収となった。アレキサンドリアは台風被害とその直後のカメムシの大発生により収穫不能となった。

3）その他の果樹；

矮性リンゴは植栽後2年を経過し，結実を始めた。特につがるの結実が早い。M7台リン

ゴ・ナシ類の大果系リンゴは台風被害で収穫不能となった。ウメは平年作。

第4表　最近5年間のブドウの収量と品質

年度	品種	生産量 (kg)	収量 (kg/10a)	糖度 (Brix)	備考
56	巨峰	1,017	1,017	17.2	
	マスカットベリーA	1,998	1,332	19.7	
	ネオマスカット	94	783	16.0	
	アレキサンドリア	73	730	17.8	
57	巨峰	1,011	1,011	17.8	
	マスカットベリーA	2,450	1,633	17.0	
	ネオマスカット	496	400	16.5	
	アレキサンドリア	71	710	18.6	
58	巨峰	1,236	1,236	18.3	
	マスカットベリーA	1,584	1,056	17.2	果実生理障害
	ネオマスカット	3	25	16.4	〃
	アレキサンドリア	102	1,020	18.2	
59	巨峰	762	762	17.5	気象生理障害
	マスカットベリーA	1,266	1,013	17.0	果実生理障害
	ネオマスカット	50	400	13.5	〃
	アレキサンドリア	133	1,330	16.5	
60	巨峰	468	468	17.8	
	マスカットベリーA	1,572	1,048	17.5	台風害
	ネオマスカット	452	376	17.2	〃
	アレキサンドリア	31	310	17.8	〃・虫害

3．作　業　実　績

第5表　作　業　実　績

内　容	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
通常勤務	63	62	63.5	68.5	51.5	61	62	63.5	60	48	39.5	39	681.5
超過勤務	8.6	10.9	11	14.1	15.4	18.5	6.4	7.4	19.2	14.8	16.7	16.4	159.4
教官補助	0	1	0	0	2.5	3.7	0	1	1	3.5	12	10.4	35.1
臨時雇用	28	50	60	60	51	45	30	48	60	14	14	45.	505.0
計	99.6	123.9	134.5	142.6	120.4	128.2	98.4	119.9	140.2	80.3	82.2	110.8	1,381.0
(種類別)													
みかん	7	5	12	13.8	29.2	5.2	17.3	70.2	57.3	27	23.2	65.7	332.9
ブドウ	9.4	52	61.2	58.4	30	65.1	9.3	2.5	24.3	8.6	7.2	11	339.0
品種保存	46.6	32	30.8	19	17.3	18.3	18.8	23	29.2	18.7	19.4	21.4	294.5
共　通	29.1	29.4	27.8	37.9	40.7	32.3	46	16.5	21	16.2	25.2	6.6	328.7
その他	7.5	5.5	2.7	13.5	3.2	7.3	7	7.7	8.4	9.8	7.2	6.1	85.9

単位；時間

4．主要購入機器

1）顕微鏡；ニコンOptiPhoto（科研費）

2）共立ハンマーナイフモアＲＨ－70

施　設　園　芸　研　究　室

1．昨年度の収支実績

1）収入の部

(1)　生産物収入

第1表　作物別収入

作　物	目　標　額	実　績
キュウリ（春）	525,000円	364,840円
〃　（秋）	300,000	325,638
メロン（春）	640,000	754,900
〃　（秋）	480,000	563,900
セルリー	300,000	98,530
その他	―――	62,421
小　計	2,245,000	2,170,229
鉢　物（春）	90,000	132,308
〃　（秋）	560,000	507,754
小　計	650,000	640,062
合　計	2,895,000	2,810,291

年度当初の生産物収入の目標額は2,895,000円としたが，実績は2,810,291円となり，約８万円下回った。作物別に見ると，キュウリでは春作は目標額を約１６万円下回り，秋作は2.5万円超過した。メロンでは，春・秋作ともに目標額を大きく上回った。セルリーでは，目標額の約1/3であった。鉢物の春はハイドランジア，秋はシクラメンが主なものであるが，総額でわずかに下回った。

(2)　貸鉢による移算

昭和５９年度同様，学内各部署より移算を受けた。その総額は1,650,000円である。

第2表　貸鉢数と移算額

部署	大鉢		中鉢		小鉢	
	鉢数	金額	鉢数	金額	鉢数	金額
本部	84	126,000円	360	360,000円	516	258,000円
工学部	48	72,000	12	12,000	24	12,000
理学部	—	—	36	36,000	48	24,000
農学部	36	54,000	108	108,000	156	78,000
演習林	12	18,000	24	24,000	36	18,000
医学部	12	18,000	24	24,000	24	12,000
病院	24	36,000	84	84,000	60	30,000
薬学部	—	—	12	12,000	12	6,000
文学部	—	—	24	24,000	—	—
法学部	—	—	36	36,000	36	18,000
経済学部	—	—	24	24,000	24	12,000
教育学部	—	—	36	36,000	—	—
電算機センター	—	—	36	36,000	36	18,000
中央図書	—	—	12	12,000	24	12,000
小計	216	324,000	828	828,000	996	498,000
合計						1,650,000

2）支出の部

第3表　支出実績

費目	金額	割合
種苗費	195,300円	5.5%
肥料費	11,900	0.3
農業薬剤費	135,450	3.8
光熱動力費	593,290	16.6
その他諸材料費	451,385	12.6
賃借料及び料費	100,474	2.8
建物及び土地改良費	566,985	15.8
農機具費	74,490	2.1
雇用費	1,429,200	40.0
その他費用	18,984	0.5
計	3,577,458	100.0

支出の総額は昭和５９年度に比べ約10%減となった。その中で10%以上を占めるものは，雇用費が40%で最も高く，光熱動力費，建物の修理・改築費，材料費の順に低かった。

2．生　産　概　要

1）キュウリ

春作は約700kg，秋作は約350kg，いずれも予想収量を下回った。

2）メ　ロ　ン

春作，秋作ともに予想収量である800個を超過した。

3）セルリー

予想株数は確保できたが，1株が1.0kg前後であった。

4）鉢　　物

春のハイドランジア，秋のシクラメンともに予想鉢数を超過した。

第4表　作物別生産量

作　　物	予　想	実　績
キュウリ（春）	3,500kg	2,793kg
〃　（秋）	2,000〃	1,644〃
メ　ロ　ン（春）	800個	939個
〃　（秋）	800〃	823〃
セ　ル　リ　ー	2,000株	1,670kg
鉢　　物（春）	300鉢	435鉢
〃　（秋）	700〃	862〃

3．作　業　実　績

全作業中に占める割合の高いものは，その他が第1位で29,9%，2位鉢物，3位キュウリ，4位メロンでいずれも10%以上であった。

第5表　作　業　実　績

作　業	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
キュウリ	15	25	25	13	31	18	19	11	3	5	7	15	187
メ　ロ　ン	11	22	6	33	26	7	15	1	—	—	5	8	134
セルリー	—	—	—	—	—	4	3.5	6.5	6	5.5	3.5	17	46
鉢　　物	16	18	26	20	15	18	19	15	23	15	20	20	225
シクラメン	8	5	5	3	3	10	8	6	8	7	6	8	77
その他花卉	5	5	7	6	3	4	4	5	8	12	6	7	72
学生実習	19	5.5	6	10	1	2	4.5	9	—	—	4	6	67
研　　修	3	2	2	2	2	2	6	2	2	3	3	3	32
そ　の　他	28	22.5	28	24	15.5	37	29	32	42	43	34.5	20.5	358
合　　計	105	105	105	111	96.5	102	108	87.5	92	90.5	89	106.5	1,197
職員　3名	63	63	63	69	64.5	60	66	55.5	60	58.5	57	64.5	744
雇用・超勤	42	42	42	42	32	42	42	32	32	32	32	42	453

単位；日

畜　産　研　究　室

1．昨年度の収支実績

1）収　入

第1表に示すとおり，牛乳による収入が，函詰牛乳，ヨーグルト，バター，乳酸飲料で929.8万円となり，昨年度より約100万円少なくなっている。また肉牛・廃牛による収入が174.3万円となり，これも59年度より約120万少なくなっている。したっがて，収入合計で59年度より約230万円少ない。

第1表　収入実績

品目	生産量	金額(千円)
函詰牛乳	47,155 函	8,959
ヨーグルト	1,096 函	132
バター	143 個	36
卵	41 kg	9
肉用牛	4 頭	1,393
廃牛	4 頭	1,350
肥育豚	4 頭	181
肉加工品	142.3kg	141
乳酸飲料	1,008 函	171
計		12,372

第2表　支出実績

費目	金額(千円)
種苗費	223
肥料費	1,648
農業薬剤費	—
光熱動力費	547
諸材料費	1,205
賃借料及料金(機受)	215
飼料費	2,741
獣医及薬品費	134
建物及土地料	547
農機具費	317
家畜費	—
その他	448
計	8,025

2）支　出

第2表に示すように，国際情勢を反映して，飼料費は59年度と比較して，約140万円少なくなったが，その部分が肥料費にあてられた。結局59年度とほぼ同額であった。

2．生　産　概　況

1）牛　乳

生乳の生産量は第3表に示すように過去5年間で最低の51,441kgであった。これは，受精率が悪く，分娩が年度末に集中した（第4表）ためであり，61年度は回復する予定である。

第3表　年度別乳量

年度	56	57	58	59	60
乳量 (kg)	59,433.4	57,457.4	64,652.4	56,573.8	51,441.6

第4表　乳牛個体別分娩間隔および乳量

乳　牛　名	生年月日	産次数	分娩月日	子の性	前回分娩	間隔(日)	年間乳量(kg)
アルベルモント　メドレーク	56. 6. 28	1			59. 4. 21		5,289.0
43 リアリー　メドレーク	56. 6. 16	2	61. 1. 10	雄	58. 8. 25	868	4,689.6
スプリング　ミソノ　ジョイ	58. 8. 18	1	60. 12. 16	雄			1,840.6
リアリー　ミソノ　メドレーク	58. 8. 25	1	60. 10. 30	雄			2,764.6
アルベルモント　R. ピラー	47. 11. 3	7			59. 7. 2		4,781.0
ロイブルック　R. テキサル	58. 3. 26	1	61. 1. 16	雄			1,454.0
スプリング　アイバンホー	57. 10. 12	1	60. 7. 4	雌			4,463.6
アルベルモント　B. D. R.	53. 6. 30	4	60. 8. 10	雄	58. 2. 25	896	4,846.6
ロイブルック　J. テキサル	52. 9. 12	5			60. 2. 21		5,755.2
アルベルモント　B. D. W.	45. 1. 29	10			57. 7. 7		1,094.8 (廃)
アルベルモント　B. D. F.	57. 7. 7	2	60. 12. 25	雄	59. 7. 20	524	4,065.6
リアリー　R. コンフィダンス	54. 10. 8	4	60. 9. 17	雄	59. 9. 17	366	5,105.0
22 スプリング	52. 10. 11	5			60. 1. 19		4,318.8 (廃)
リアリー　S. リワード	58. 1. 20	1	61. 1. 29	雄			973.2
アルベルモント　R. ベティ	57. 12. 29	1	61. 3. 30	雄			

2）肉　牛

肉用牛については第５表に示すように４頭出荷した。しかしながら，それらの平均増体量はきわめて低かった。

第5表　肉用牛の増体量

個体番号	肥育日数	1日増体重(g)	備　　考
乳牡 1	365	740	60. 4. 1 (330) ～ 61. 3.31 (600)
2	365	548	(294) (494)
3	365	583	(187) (400)
4	274	628	60. 7. 1 (176) (348)
5	274	712	60. 7. 1 (155) (350)
6	60	716	61. 1.30 (211) (254)
7	60	700	61. 1.30 (200) (242)
和牝 1	173	370	60. 4. 1 (471) ～ 60. 9.20 (535) 出荷
2	337	487	(373) ～ 61. 3. 3 (537) 出荷
3	173	243	(475) ～ 60. 9.20 (517) 出荷
4	337	116	(508) ～ 61. 3. 3 (547) 出荷
5	335	695	60. 4.30 (60) ～ 61. 3.31 (293)
牡 1	365	605	60. 4. 1 (302) ～ 61. 3.31 (523)
2	365	463	(321) (490)
3	181	348	60.10. 1 (177) (240)

3）飼料作物

圃場別，作物別の飼料作物の収量は第６表に示すとりである。59年度と比較し，ライグラスが約70ｔ，エンバクが約50ｔ少なくなり，ソルゴーは約30ｔ多くなっており，差引き，約90ｔの減少であった。

月別の収量は第７表に示すとおりである。また，利用形態別には第８表に示している。59年度と比較すると，青刈りで約46ｔ少なく，サイレージで約47ｔ少なくなっている。

第6表　圃場別飼料作物別収量

作物	ライグラス	エンバク	カブ	デントコーン	ソルゴー	竜北グラス	大麦	テオメイズ	計
鶴見 1	3.60							2.10	5.70
2	2.86			4.50	5.40		8.21		20.97
3				23.85					23.85
4		4.40		5.00					9.40
新園 2									
4	20.00				30.43				50.43
7			3.45	3.73					7.18
桑園 1	16.00				10.89				26.89
実験 41									
放牧 2	9.84								9.84
3	28.42								28.42
麦 21	5.50					3.31			8.81
旧園	12.89				8.22				21.11
計	99.11	4.40	3.45	37.08	54.94	3.31	8.21	2.10	212.60

単位；t

第7表　月別飼料作物収量

月	ライグラス	エンバク	カブ	デントコーン	ソルゴー	竜北グラス	大麦	テオメイズ	計
60. 4	18.70								18.70
5	57.78						2.48		60.26
6	13.28						5.73		19.01
7				9.50					9.50
8				27.58	25.10				52.68
9					14.97	2,33			17.30
10					14.87	0.98			15.85
11								2.10	2.10
12	2.89	4.40							7.29
61. 1	3.76								3.76
2	2.70		1,76						4.46
3			1.69						1.69
計	99.11	4.40	3.45	37.08	54.94	3.31	8.21	2.10	212.60

単位；t

第8表　飼料作物別利用形態

飼料作物	青刈	サイレージ		乾草	計
		コンクリート	スチール		
ライグラス	55.51	16.00		27.60	99.11
カブ	3.45				3.45
デントコーン	5.00	23.85	3.73	4.50	37.08
ソルゴー	25.03		29.91		54.94
竜北グラス	3.31				3.31
大麦		2.48	5.73		8.21
エンバク	4.40				4.40
テオメイズ	2.10				2.10
計	98.80	42.33	39.37	32.10	212.60

単位；t

4）堆厩肥

厩肥生産量および堆肥利用量については第9表に示す。59年度購入したボブキャットにより，積み上げ，切り返しが可能となり，ほとんどを堆肥舎で完熟させて，田畑に利用することができた。なお，生厩肥には水分が多量に含まれているが，堆肥となった時点では水分が少なくなっているため，厩肥生産量と堆肥利用量が異なる結果となった。

第9表　厩肥生産および利用

年月	生厩肥	鶴見2	鶴見3	鶴見4	新園2	新園4	新園7	桑園1	ボタ地	部長	その他	計
60. 4	28.9		25.0								15.0	40.0
5	16.6	15.0										15.0
6	14.6											
7	10.2			8.0								8.0
8	6.2								3.5	3.0		6.5
9	10.7						7.0					7.0
10	13.6				6.0							6.0
11	14.0									1.2		1.2
12	18.5							19.0				19.0
61. 1	18.4					20.0					15.4	35.0
2	14.5											
3	15.5									1.5		1.5
計	181.7	15.0	25.0	8.0	6.0	20.0	7.0	19.0	3.5	5.7	30.4	139.6

単位；t